

“次世代に継承するレガシー” 輝かしい未来の礎を築く

岐阜市新庁舎実施設計【概要版】

平成29年3月 岐阜市

平成29年12月 改訂

平成30年12月 改訂



○新庁舎と「みんなの森 ぎふメディアコスモス」を臨む

1 新庁舎建設について

我が国においては、平成23年の東日本大震災以降も、関東・東北豪雨や熊本地震といった、大規模な災害が頻発しています。

また、これらの災害では、庁舎が損壊して機能不全に陥り、被災者の支援や行政サービスが滞る事例が続出し、災害対応の拠点となる行政庁舎の重要性が改めて浮き彫りになりました。

本市を含むこの地域は、南海トラフ巨大地震の発生が強く危惧されていることから、高度な防災拠点機能を備えた新庁舎の建設は、喫緊の課題であり、本市では、現在、令和3年春の開庁に向け、スピード感をもって事業に取り組んでいます。

このたび、平成28年3月に公表した、建物の概要を示す「基本設計」を踏まえ、建物の詳細に及ぶ「実施設計」を策定しました。今後も引き続き、「市民の皆様が開かれた庁舎」、「市民の皆様の安心の礎となる庁舎」の建設を、着実に進めてまいります。



○「みんなの広場 加判」を中心に、新庁舎と「みんなの森 ぎふメディアコスモス」を臨む



○正面玄関として、多くの来庁者を迎える格調ある南側エントランス



○庁舎4階に整備する「みどりの丘」と「平和の鐘」

■ いかなるときも、市民の皆様が頼りにできる庁舎

新庁舎は、災害時の司令塔として、非常時優先業務を確実に遂行するため、あらゆる災害を想定し、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」や、防災広場機能を備えた「みんなの広場 カオカオ」と連携し、高度で複合的な防災拠点として整備します。

新庁舎の防災計画

立体駐車場

一般の建築物よりも、耐震性や耐久性を強化し、備蓄倉庫を整備するとともに、災害時には、屋根のある大きなスペースを活かし、大型災害車両の駐留や支援物資の集積、荷捌きスペースとして有効に活用します。

みんなの森

ぎふメディアコスモス

災害時にはボランティアセンターなどを設置し、受付や登録、活動案内とともに、様々な情報を提供します。

緊急救助活動スペース

屋上階にホバリングスペースを設け、災害時の救援物資の受け入れなどに活用します。

庁舎設備の集約

長良川の氾濫や集中豪雨があっても水損しないよう、庁舎8階に、庁舎機能の維持に不可欠な熱源機械室・電気室・発電機室などの基幹設備を集約します。

また、3日分の非常用電源や、飲料水の確保など、ライフライン対策を強化します。

災害対策本部室の常設

庁舎6階を防災フロアと位置付け、災害対策の中核機能を担う「災害対策本部室」を常設するとともに、複数の会議室を一元的に活用します。

浸水対策

浸水対策として、庁舎1階の床レベルを周囲のレベルより1m以上嵩上げします。

また、万一に備え、免震層に排水側溝と排水装置を設け、庁舎内への浸水を防ぎます。

地震対策

建物の揺れを抑制する「基礎免震構造」を採用し、通常の建築物の1.5倍の耐震性能を確保します。

エントランスモール

り災証明の発行など、臨時的な災害窓口を開設します。

携帯電話の充電などに活用できる非常用コンセントを複数整備し、一時帰宅困難者等の連絡手段を確保します。

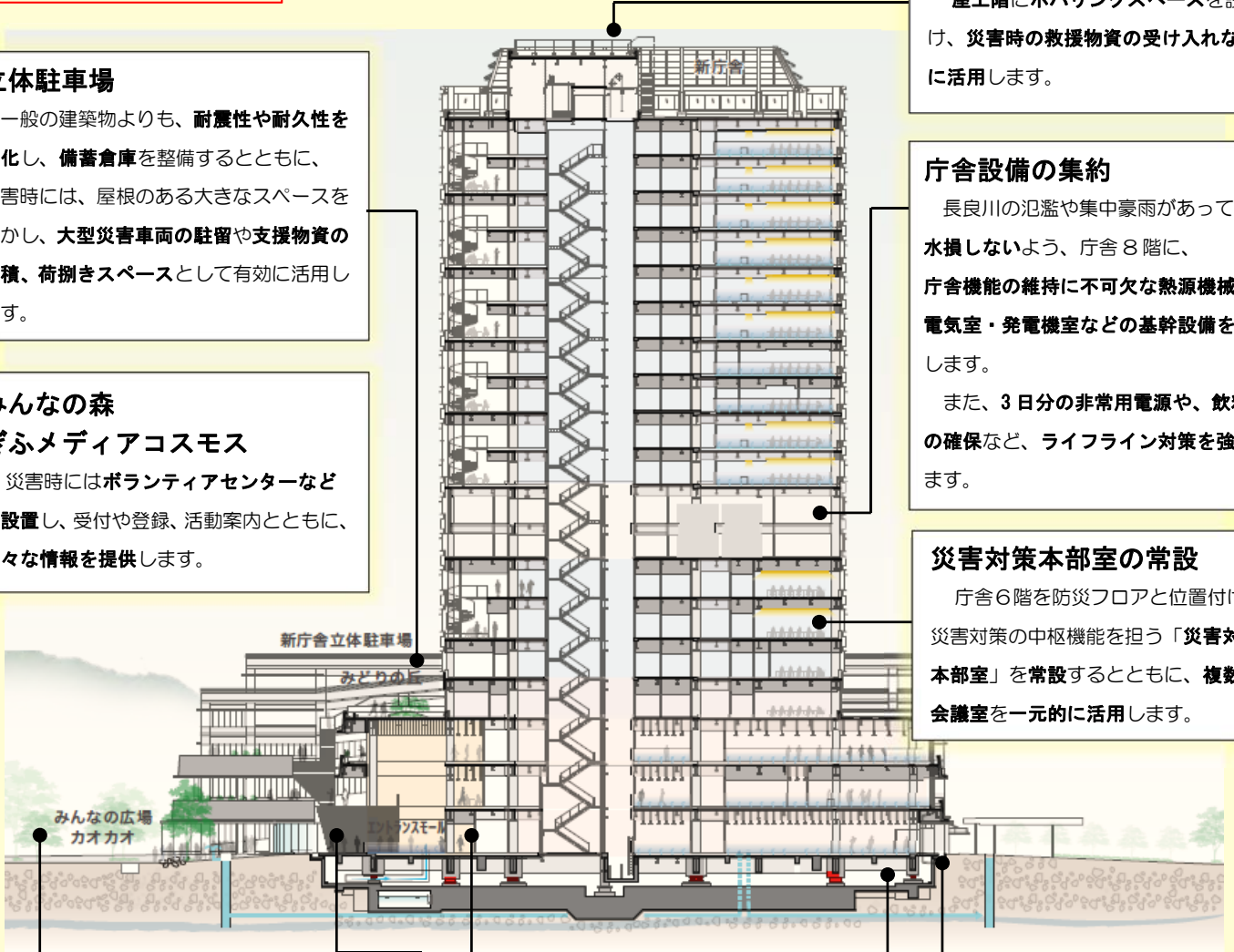
市民交流スペース

庁舎1階の市民交流スペースを、災害時の一時帰宅困難者等の受入スペースとして活用します。

みんなの広場 カオカオ

防災広場として、災害用ガスバルクタンクや、非常用電源設備などを整備し、災害時のエネルギーを確保します。

重車両に対応したインターロッキング舗装を採用し、災害大型車両の乗り入れを可能にするとともに、関係機関が防災テントを設置できるよう、テント足場を設置します。



■ 利便性と快適性を追求した、市民の皆様が開かれた庁舎

- 1階から3階の低層階に、行政窓口とともに、レストランやコンビニエンスストア、金融機関や郵便局といった**利便施設を集約し、総合的なワンストップサービス**を提供します。
- トイレや通路、階段やエレベーターなど、市民の皆様が利用する空間を、**ユニバーサルデザインの考えに基づき、誰にも優しい空間**として整備します。
- **立体駐車場内に、公共バスの停留所**を設けるとともに、来庁者が雨に濡れないよう、各階に庁舎への**連絡通路**を設けます。
- 利便施設を集約する低層階や、15・17階に設置する**展望スペース**は、**土日祝日などの閉庁時においても、開放できるように計画**します。
- 多くの人で賑わう「**みんなの森 ぎふメディアコスモス**」や、整備面積の拡張により、より大規模なイベントの開催が可能となる「**みんなの広場 カオカオ**」と**連携し、さらなるにぎわいと、まちの魅力**を創出します。



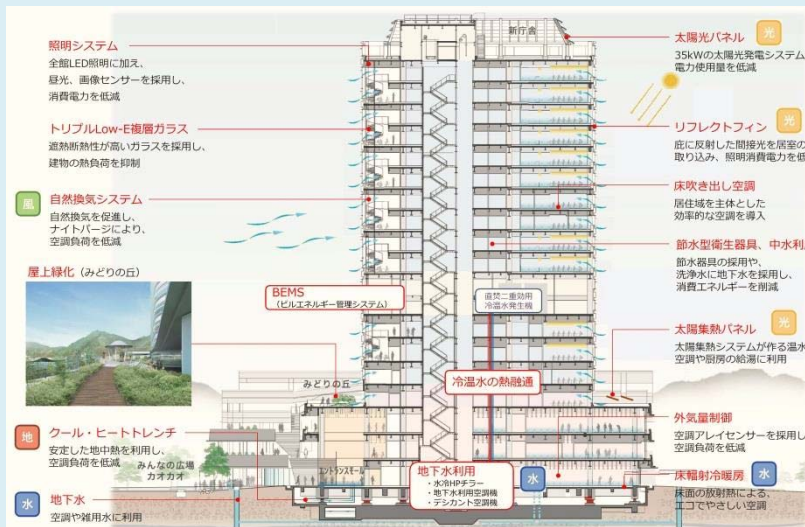
○ 開放的なエントランスモールと一目で見渡せる窓口カウンター



○ 「みんなの広場 カオカオ」と連携したイベントなど、「にぎわいの相乗効果」を生み出す庁舎北側の市民交流スペース

■ 環境に配慮した持続可能な庁舎

- 新庁舎は、本市の特色である、豊かな太陽光や地下水といった、**自然エネルギーの積極的な活用**とともに、**省エネルギーに資する環境配慮設備の採用**により、**優れた環境性能を確保し、光熱水費などのランニングコストの縮減**に努めます。
- 新庁舎の**環境性能は、全国共通の指標**である、「**建築環境総合性能評価システム（CASBEE）（※）**」において、**最高ランクである「Sランク」の認証**をいただきました。
- 省CO2の実現性に優れたプロジェクトとして、**国のサステナブル建築物等先導事業**に採択されました。



○ 岐阜の自然環境を最大限活用する新庁舎



(※)一般財団法人建築環境・省エネルギー機構 (IBEC)により、建築物の環境性能を評価し、その格付けを行うシステム



○ CASBEE による「Sランク」の評価認証書

3 計画概要

計画地 岐阜市司町 40 番地 1 ほか
敷地面積 20,187 m²

■新庁舎の位置図



■新庁舎

延べ面積	39,504 m ²
構造	鉄骨造、基礎免震構造
規模	地上 18 階 (高さ 84.45m)

■立体駐車場

延べ面積	17,138 m ²
構造	プレキャストコンクリート (PC) 造、耐震構造
規模	地上 5 階 (高さ 24.85m)
駐車台数	432 台 ・一般車両駐車場 381 台 (うちハトル駐車場 27 台) ・その他 (公用車、観光バス等)

■外構

面積	10,573 m ² (うちみんなの広場加加 4,270 m ²)
附帯設備	防災設備 (ガスバルブ、非常用電源設備、テント足場等) ほか

4 事業費及び財源

新庁舎の事業費は、基本・実施設計を通じ、事業用地の拡張といった高い事業効果を生み出す、隣接民有地や県道一部敷地の取得費 20 億円を含め、269 億円としています。

また、その財源は、一般家庭の貯金にあたる基金や、国からの支援のある合併特例債をはじめ、新たに国・県の補助金や、有利な起債を活用し、将来世代へ過度な負担を生じないように配慮します。

■事業費の内訳 (単位：億円・税込)

内訳		事業費
庁舎建設	建設費	223.8
	諸費	16.2
現庁舎解体費		9.0
小計		249.0
隣接民有地・県道取得費		20.0
合計		269.0

■財源の内訳 (単位：億円)

内訳		財源
基金	庁舎整備基金	91.8
	岐大跡地整備基金	38.5
	小計	130.3
補助金	国庫補助金(4種類)	6.95
	県補助金(1種類)	0.05
	小計	7.0
地方債	合併特例債	91.2
	緊急防災・減災事業債	7.9
	公共事業等債	12.1
	一般単独事業債	17.0
	小計	128.2
その他	負担金	0.5
	一般財源	3.0
	小計	3.5
合計		269.0

5 事業スケジュール

年	2015(H27年度)	2016(H28年度)	2017(H29年度)	2018(H30年度)	2019(R元年度)	2020(R2年度)	2021(R3年度)
工程	基本設計	実施設計	発注準備	工事期間			新庁舎業務開始
新庁舎				基礎工事 H30.4頃	上部工事	完了検査	工事期間 約 33.5 カ月
立体駐車場				施工図作成 H30.10頃	基礎工事 R元.9頃	上部工事 完了検査	約 27.5 カ月
外構						外構工事 R2.7頃 完了検査	約 8.5 カ月

※本書のバース図は、実際の施工と異なる場合があります。

**新庁舎が、市民の皆様が開かれた、よりよい庁舎となるよう、
ご意見を募集しています。ぜひ、お気軽にご意見をお聞かせください。**

担当 岐阜市 行政部 新庁舎建設課

〒500-8701 岐阜市今沢町 18 番地

電話：(058)214-6558 FAX：(058)262-0512 E-Mail：shinchosha@city.gifu.gifu.jp